

平成26年 第1回

京田辺市議会定例会  
一般質問通告書

京田辺市議会

# 平成26年議会通告第1回 一般質問市問通告定書例会次

通告順位	議員名	ページ
1	次田典子	1
2	岡本茂樹	2
3	鈴木康夫	4
4	米澤修司	6
5	水野恭子	8
6	増富理津子	10
7	奥西伊佐男	12
8	小林喜代司	13
9	南部登志子	14
10	上田毅	15
11	青木綱次郎	16
12	塩貝建夫	17
13	河田美穂	18

### 1 施政方針について市長に問う

- (1) 基本認識や全般にわたり、日本では最大の問題である原発に関し、全く触れていない。危機的状況と考えていないのか。
- (2) 施政方針には経済の回復兆候とあるが、経済評論家の中には経済の回復とは言えないという見方もある。生活保護等の社会保障制度利用者も増加し、高齢化対策も不十分だ。今後どのような対策をしていくのか。

### 2 教育問題について

- (1) 入学・卒業式における日の丸・君が代を強制せず、思想信条の自由を守るべきだ。
- (2) 中学校でプール授業の実施をすべきだ。
- (3) 保育所、幼稚園、小・中学校における警報発令時の対応について。
- (4) 大住ヶ丘北歩道橋を撤去すべきだ。

### 3 甘南備園建替え問題について

甘南備園の建替えに関し、広域化という方法の相手先として枚方市と交渉していくと発表した。その経過と根拠を示せ。

### 4 女性の人権問題について

- (1) 女性の貧困問題が大きくなっている。市内での状況について。
- (2) DVなど発生件数と対応の強化について。

**1 健康長寿社会の推進について**

- (1) 高齢化の急進状況について、10年間のデータをもとに説明されたい。
- (2) 健康寿命を維持、増進させる対策はどうか。高齢者の生きがいづくりや健康維持のための政策について述べられたい。
- (3) 京田辺市健康増進計画・食育推進計画は、順調に進んでいるか。

**2 男女共同参画社会の推進について**

- (1) 女性が働ける環境づくりのため、保育所や学童保育さらに市の政策はどのように考えているのか。
- (2) 女性の審議会等への登用や市役所・学校での管理職登用率の現状と将来目標はどうか。
- (3) 女性消防団員の現状と積極的増員の考えは。
- (4) 女性交流支援ルームの移転、体制の拡充の考えはないか。

**3 文化行政の積極的推進について**

- (1) 文化行政の推進方策について、具体的に明らかにされたい。
- (2) ハード、ソフト両面のビジョン作りについて、いつごろを目標にどのように行うのか。
- (3) 文化振興審議会を設置するなどして、市民と行政の協働で文化振興計画作りを行ってはどうか。

**4 教育制度改革について**

- (1) 中教審等の教育制度改革についての答申や、これをめぐる動きについて、市長・教育長の見解をお聞きしたい。

岡本 茂樹

- (2) 教育課題等に迅速に対応できるようになるのか。
- (3) 政治的中立性は担保されるのか。

### 1 「あんあん」をもっと身近にヴィヴィッドに

本年4月より、第三の地域包括支援センターが宝生苑でオープンする。時を同じく、市民から募った地域包括支援センターの愛称「あんあん」もスタートする。

そこで、本市の高齢者施策につき以下の視点で質問する。

- (1) 「あんあん」をより市民に浸透させる具体策を問う。
- (2) 「あんあん」のメニューの一つである「成年後見制度」について、弁護士、司法書士など法律専門家に頼る考えか、あるいは市民後見制度の充実をはかるのか、その方向性を問う。
- (3) 一人暮らし高齢者の見守り施策の一環として開始した宅配事業者などとの連携について、情報の流れと展開状況を問う。
- (4) 松井ヶ丘幼稚園前道路から宝生苑に至る道路開通計画とその進捗を問う。

### 2 市民が集い、ときめく小学校用地に

山手南住宅地が開発され15年以上経つが、地域に移り住まれた住民は当初より計画されている小学校予定地について万感の思いを持っておられる。小学校の持つ最大のミッションは教育の場である一方、地域社会から視ると①広域避難所でもあり、②地域スポーツの拠点でもあるが、ここ数年の実現は考えづらい。

現状では宝の持ち腐れで、もったいないという市民の声もあり、今後、小学校建設が具体化するまでの間、上記①②の視点からその一部でも有効活用していく可能性を問う。

### 3 ご当地ナンバーで弱みを強みに転換しよう

鈴木 康夫

本市は、通過交通のまちと言われて久しい。山手幹線が平成27年度全面開通しその様相はより濃くなる。一方、本市は同志社大学があることから、バイクを利用される市民の方が多い。ご当地ナンバープレートは、走る広告塔とも言われ、コストパフォーマンスが非常に高い。幸い、当制度を採用している自治体は、京都府では宮津、亀岡両市のみであり、南部地域ではまだない。また、政府は2020年の東京オリンピックを記念する自動車ナンバープレート交付の検討を始めた。

このような状況の中、他に先駆け、市民参加で京田辺を大いにPRしよう。

### 1 災害時の対応について

- (1) 避難所開設時、水・トイレ・食料・防寒・プライバシー・要員の確保などの環境整備について現状と課題を問う。
- (2) 避難所に行かない在宅者に対するトイレの確保・水・食料など備蓄についてのマニュアル作成について問う。
- (3) 帰宅困難者対策への取組みについて問う。

### 2 災害時の後方支援活動について

- (1) 南海地震・原子力災害等に対する被災地への後方支援・被災者の受入れについての考え方を問う。
- (2) 災害時相互応援協定締結自治体の拡大についての考えを問う。
- (3) 東日本大震災被災自治体への応援職員の派遣について問う。

### 3 今後の児童数の見込みと保育所や市立幼稚園・学童保育について

- (1) 今後の児童数の推移と要保育児童の推移について問う（学区・地域別の推移も）。
- (2) 今後の保育所整備の計画について問う。
- (3) 保育所での預かり保育の現状と今後の課題・計画について問う。
- (4) 幼稚園での園児の延長保育・預かり保育など今後の積極的な活用策を問う。
- (5) 学童保育の充実・整備についての考え方を問う。児童数の増加と6年生までの拡大への対応策と、学校に併設する現状の留守家庭児童会方式だけでよいのか。

### 4 非常勤職員の処遇改善について



米澤 修司

- (1) 非常勤職員の経験・職責に対応した処遇の改善について問う。
- (2) 非常勤職員の契約更新について問う。

## 1 留守家庭児童会の改善と充実を

「子ども・子育て支援法」の制定により、学童保育が「地域子ども・子育て支援事業」として位置付けられた。また「児童福祉法」の改正により、より一層、留守家庭児童会は重要な施設として位置付けられている。本市の留守家庭児童会の改善と充実を求める。

- (1) 26年度の留守家庭児童会の入所者数の見込みは。
- (2) 留守家庭児童会の入所者数が増大している中で、市の事務局体制の強化を。
- (3) 指導員の待遇について、正職員の配置と1つの児童会に複数の嘱託職員を配置、3年以上雇用している臨時職員の待遇改善、安定した雇用、研修の充実をすべき。
- (4) 40人以上の大規模留守家庭児童会の解消を。
- (5) 設備の改善について、トイレの増設、台所の設置、ロッカーの増設を。
- (6) 長期休暇の場合の開設時間は、朝7時からとするよう工夫すべき。
- (7) 留守家庭児童会の所管は、教育委員会から健康福祉部に移管すべき。

## 2 障がい児や難聴者、難聴児の豊かなくらしと人権が守れるよう環境整備を

- (1) 27年度に城陽市に開所される京都府情報提供施設の建設にあたり、市としても円滑な支援ができるよう人員確保、人材育成を要望すべき。
- (2) 高齢化社会が進むにつれて、ますます増加が予想される難聴者へのケアは重要である。補聴器を使用してもあらゆる音が聞こえてくるので、聞き分けが困難で疲れてしまう。市においても、補聴器の限界をカバーする磁気ループシステムの活用と拡充を。
- (3) 市の手話通訳者について正規職員の配置を。
- (4) 補聴器の電池を無償支給にもどせ。

- (5) 難聴障がい児への対応として、小学校にFMシステムの設置を。
- (6) 通級指導教室の増設を府に要望すべき。

### **3 地域要望**

- (1) 大住児童館において、他市の子どもも受入れをすべき。就学前の子どもは入れるようになったが、小学生は未だ入れない。改善すべき。
- (2) JR松井山手駅のロータリーに障がい者用の一時駐車スペースを設置すべき。  
25年度に予算がついたができていない。障がい者にやさしい街づくりこそ大事だ。早急に設置すべき。
- (3) 山手幹線京都銀行大住支店前の交差点に音響式の信号設置を。

### **4 市民へ雨水タンク設置の助成を**

第3次総合計画の実施計画の中で、26年度の事業計画として、雨水タンク設置補助が掲げられているが、26年度の予算には入っていない。要望も多い中で、実施すべき。

## 1 誰もが安心して老後も暮らしていける地域づくりを

(1) 政府は介護保険制度において、要支援者の「訪問介護」と「通所介護」をサービスから外し、2017年4月までに市町村が代わりの事業を実施すること、また特養入所は要介護3以上とするとしている。「訪問・通所介護」では基準もなく報酬単価も引き下げ、NPOやボランティアに任せるとしており、全国の利用者90万人、京都では約13000人に大きな影響が出るとされている。介護サービスの水準が全体的に低下することは間違いない。本市における市民への影響と誰もが安心して利用できる介護保険への対策について問う。

ア 市が代わりの事業を行える体制にあるのか。どれだけの市民に影響が出ると考えているのか。軽度のサービスの切捨てをしないよう国に求めるべき。

イ 次期計画の中で所得に応じた負担率になるよう、保険料の段階設定見直しをすべき。

ウ 一般会計からの繰入れなど独自軽減策と同時に、市として国・府に対して補助金を増やすなど特別対策を求めよ。

(2) 高齢化社会が進む中で、本市でも一人暮らしの高齢者世帯が増え、施設利用もできず、家族に介護の重い負担がかかっている状況にある。日常生活をしている地域ごとに、安心して暮らせる条件を整えるため、小学校区単位等で支えあう小さい範囲の保健・医療・介護と福祉が連携した地域包括ケアの確立が必要である。そこで、小学校区ごとに地域包括支援センターの設置をめざすべきと考えるがどうか。

また、その中心を地域包括支援センター(市)が担っていくネットワークの構築をしていくべきだと考える。市の考えと構想を問う。

## 2 安心して子どもを産み育てられるための子育て支援体制を

- (1) 入所希望者全員を受け入れられるよう、今後の保育需要についての市の認識と保育施策について問う。
- (2) 子どもたちが身近に利用でき、安心して遊べる場所の確保は重要な課題。小学校区単位で児童館の設置を。

### **3 災害に強いまちづくりを**

- (1) 地域自主防災組織の活動状況と未組織地域への具体的な設置に向けた働きかけはどのように行っているのか。
- (2) 火災に備えての重要な取組みとして、消火栓器具庫や消火栓の定期点検・修繕などの強化を。
- (3) 高齢者や障がい者の世帯に家具転倒防止金具等の取付けに助成を。

**1 義務教育課程での学校教育方針を問う**

英語教育について、市の見解を問う。グローバル化を見据えて、政府は2018年から学習指導要領の改正に乗り出すと聞くが、英語教育の授業を低学年に移行し、時間数を増やし、また特区を設ける等の改正に、一部学者から否定的な意見もある中で、本市では英語教育に対しどのような方針で臨もうとしているのか、その教育方針を問う。

**2 不法投棄の現状と対策を問う**

不法投棄対策の強化の一環として人感センサーの設置に続き移設型監視カメラ「みてるちゃん」を導入したが、その抑止効果と消費税引上げ前の家電製品の駆け込み需要が予想されることから、今後の対策を問う。

**3 小学校への空調設備設置事業の進捗を問う**

昨年12月議会での補正予算案可決を受け、2月の臨時議会を経て業者選定や、各種工事の準備が着々と進められているが、継続施行となる大きな事業でもあり、順調に計画を進めてほしいと考えるが、現在の進捗は。

**4 安心安全のまちづくりのうち、防災（減災）対策について問う**

地域ごとのマイ防災マップの作成が進んでいるがその成果は。また、全地域での完成予定と防災対策について、今後の展望と計画を問う。

**1 市の農業振興方策について**

茶、米、田辺茄子、エビイモ等が本市の主要農産物である。しかし、いずれの生産農家も高齢化に伴い、後継者や担い手の不足が深刻である。

市として、本市の農業の将来にどのような施策を行おうとされているのか。

特に、本市の中でも高齢化率が高く、人口の減少が続き、荒廃農地が増加しつつある普賢寺地区の振興方策をどのようにされようとしているのか。

**2 学校給食の地産地消、地場産利用の現状と今後の利用促進について**

本市では学校給食での地産地消の促進を図るために「まるごときょうとの日」を設けて地場産の利用拡大を進められているが、現在どの程度まで進んでいるのか、また今後の計画について。

**3 市内各小学校トイレの整備促進について**

市内の各小学校トイレの改良整備については、学校の大規模改修時にトイレの整備も並行して進められているが、未整備の箇所が多い。

新入学児童の保護者から心配をする声が出ているが、市の対応について。

**4 府道八幡木津線の交通安全対策について**

薪一休寺道から J R 同志社前駅間の交通安全対策として大型車の交通規制を要望しているが、平成 27 年度の山手幹線全面供用時に計画どおり薪茶屋前交差点の改良は完了し、交通規制は実施される予定であるのか、その見通しについて。

**1 近鉄新田辺駅東側について**

- (1) 踏切から田辺高校までの道路拡幅や商店街内の道路整備について計画及び実施されているが、その進捗状況を問う。
- (2) 駅前広場の整備が必要と考えるが、市の認識は。また、老朽化し空き店舗が増える一方の商店街の今後のあり方について、市の見解を問う。
- (3) 以前に老朽化している府営団地の建替えの必要性を指摘したが、市としてはその後どのように検討されたのか。
- (4) 増える独居高齢者の対応について、もはや民生委員さんだけでは対応できない状況が次々と生まれている。今後は、地域としての支え合いをより強固なものにすることが求められると考えるが、市の見解は。

**2 普賢寺地域について**

- (1) 今回予算計上された普賢寺地域活性化補助金の具体的計画について問う。
- (2) Uターン・Iターン制度が実施できるよう土地利用のあり方について早急に検討すべきと考えるが、市の見解を問う。
- (3) 普賢寺小学校について
  - ア 小学校と幼稚園の連携をさらに強固なものにすることで、特認校制度の認知を広めるべきと考えるが、教育長の見解を問う。
  - イ コミュニティスクールのあり方について、さらにかつ達な議論ができるよう、推進委員さんに対して積極的な活動支援や情報提供を行うことを求める。
  - ウ スクールバスを地域交通としても利用できるよう検討を求める。
  - エ 支援学級や学童保育の設置を求める。



**1 福祉活動の運動強化と拡大について**

福祉活動の一つの取組みとして、ペットボトルのキャップや空き缶のプルトップの収集場所の設置の拡大やPRを押し進めてはどうか。

**2 本市の土地評価額の動向について**

現在の本市の土地評価額と公示価格とに開きがあるため、現状の地価の動向を把握し、正しい評価となるよう見直しを求める。

**3 本市内における保育所・幼稚園の現在の状況について**

今春、入所・入園予定の子どもに対して、本市の施設や保育士及び幼稚園教諭の数は足りているか。待機者は出ないかを問う。

### 1 公共交通基本条例の制定を求める

市民の移動権の確立、保障と、本市の様々な施策の効果を高めるためにも公共交通の維持、整備は重要な課題である。そのための基本的な理念、基本計画などの策定に向けた公共交通基本条例を制定すべきと考えるが、市の見解を明らかにされたい。

### 2 市内の公共交通の現状と課題について

- (1) 本市の公共バス路線網を市民にとってより利用しやすいものへと整備、充実するための具体的取組みを問う。
- (2) 市民の要望にもとづいた公共交通網の整備について、オンデマンド・バスなど多様なあり方も検討すべきと考えるが、市の見解を明らかにされたい。
- (3) 幅広い市民の要望などを反映させるために、ワークショップ方式や、市民参加の協議会の設置などを進めるべきと考えるが、市の見解を問う。

### 3 市内の生活道路の安全対策について

- (1) 市の交通政策全体の中で、生活道路も含めた安全対策をしっかりと位置付ける事が必要であり、そのための基準、方策などを示したガイドラインを作成すべきと考えるが、市の見解を明らかにされたい。
- (2) 花住坂公民館前の準幹線道路の安全対策の強化を求める。

### 1 京田辺市の将来のまちづくりについて

- (1) 京田辺市第3次総合計画が2015年度(平成27年度)で10年の区切りとなる。2016年度以降の第4次京田辺市総合計画策定について問う。
- (2) 同第3次総合計画をチェックし、残された課題は何か、新たな視点でどう「まちづくり」を進めていくかの議論が必要と考える。市長の認識を問う。

### 2 高齢者対策について

- 高齢者の運転による交通事故が増加している。そこで、
- (1) 運転免許証自主返納者について、本市の状況を問う。
  - (2) 免許返納者に「運転経歴証明書」が発行され、返納の優遇制度が広がっている。本市独自の支援を行うべきと考える。

### 3 教育問題について

- (1) 教育委員会制度のあり方について、安倍首相の強引な制度変更が行われようとしている。市長並びに教育委員長、教育長の認識を問う。
- (2) 教職員の長時間勤務実態は改善されたのか。  
前教育長時代に行った勤務時間実態調査結果と比べて、改善の進捗を問う。

### 1 検診の受診率向上について

- (1) 検診実施時間及び検診場所等の情報を容易に入手できるように情報提供体制を考えるべき。
- (2) 休日・早朝・夜間に検診を実施すべき。
- (3) がん検診において、特定の年齢の者に個別に受診を呼びかける受診勧奨（コール・リコール）を実施すべき（再勧奨・未受診の理由を把握する）。

### 2 教育問題について

- (1) 小・中学生が各種検定（英語検定・漢字能力検定等）を受ける検定料を助成してはどうか。
- (2) 朝学習や児童集会、給食の時間などを活用して、英会話学習を小・中学校で取り入れてはどうか。
- (3) 読書に親しんでもらう取組みの一つとして、「読書通帳」を導入してはどうか。

### 3 防災・減災対策について

- (1) 災害時に備えて「防災士」の育成が重要。地域の防災リーダーの育成のため、市民の多くが資格を取得しやすいように、資格取得に必要な費用の助成制度を整備すべき。
- (2) 障がいや難病を抱えた人が、必要な支援を予め記しておき、緊急時や災害時などの困った際に提示して周囲の配慮や手助けをお願いしやすくする「ヘルプカード」を作成、配布すべき。
- (3) 市民に消火栓の位置の周知徹底と、実際に消火栓を使った訓練をすべき。

河田 美穂

(4) 消防団人員確保のため、中・高生、地域の若者などを対象とした「1日体験入団」をしてはどうか。